

通俗陰陽文

文政九丙戌





道教書

昭和五年三月一日 飯島氏より  
贈りし  
村井順

村井順 先生の



陰騭文

賜 雲 齋 文 庫

きの

文昌帝君勸行陰騭文曰吾一十七  
 世為士大夫身未嘗虐民酷吏救人  
 之難濟人之急憫人之孤容人之過  
 廣行陰騭上格蒼穹人能如我存心  
 天必錫汝以福於是訓於人曰昔于  
 公治獄大興駟馬之門竇氏濟人高



コウヲサメテゴクヲヲイニラコシ  
ヨソノ  
モシ  
シ  
タカク

折五枝之桂救蟻中狀元之選埋蛇  
享宰相之榮欲廣福田須憑心地行  
時時之方便作種種之陰功利物利  
久修善修福正直伐天行道慈祥為  
國救民存平等心擴寬大量報答四  
恩廣行三教忠敬君王孝順父母和  
好兄弟信交朋友或奉真朝斗或拜

佛念經談道義而化奸頑講經史而  
曉愚昧濟急如濟涸轍之魚救危如  
救密網之雀矜孤恤寡敬老憐貧舉  
善薦賢饒人責己措衣食周道路之  
饑寒施棺擲免屍骸之暴露造漏澤  
之仁園興啓蒙之義塾家富提攜親  
戚歲饑賑濟隣朋斗秤須要公平不

可輕出重入ベカラカクイダシラモクイル奴僕待之ボクハマツニコレクハシヨセヨフニベケンツクサニ莫怨モクハシヨセヨフニベケンツクサニ豈空備ツクサニ

責苛求印造セノカラクモトムイニソウシ經文ケイブン躬修ソウシュ寺院シヤウイン捨藥材シヤクサイ

以拯疾苦モツテスクイニツクフホドクシサ施茶湯シヤウモツ以解渴煩モツテトキカツ點夜燈テンジヤトウラ

以照人行モツテテラシシニコウラツクリテク造河船セニラ以濟人渡モツテスクウジン或買物アルビカウテモノヲ

而放生ホウセイシアルヒバジシテ或持齋サイヲ而戒殺カイサウスマゲテ舉步常看ツブミル看蟲クウ

蟻禁火ギキヒ莫燒山林ナカレヤクイサンリン勿登山ナカレホツテヤマニ而網禽鳥アミスルキケンヤウラ

勿臨水ナカレクニテミツニ而毒魚蝦ドクイキヨカラ勿宰耕牛ナカレコロスコウキユラナカレ勿棄スツク守シ

紙シ勿謀人之財ナカレハカルヒトノサイ產サン勿妬人之技ナカレヤクヒトノギ能ノウ勿ナカレ

淫人之女イニスルヒトノメヨ妻サイ勿峻人之爭ナカレサスルヒトノソウ訟ソウ勿壞人ナカレヤクヒト

之名ノイリ利リ勿破人之婚ナカレヤフルヒトノコン姻イン勿因私ナカレヨツテシ讐シウ使シム

兄弟不和ケイテイガハラ勿因小利クワセオカヨツテシヨウリニシムルヒト使人父子不睦シムラフ

勿倚權勢ナカレヨツテケンセ而辱善良シカシムセリヨウラナカレタニテフ勿恃富豪ナカレトキヒト而欺コウラ

窮困キウコン依本分ヨツテホニ而致謙恭イダシケンキヤウラマモツテキ守規矩ウヤマイ而遵シム

法度ホウト諧和カイクシ宗族ソウ解釋ソウ冤怨エン善人エン則親シム

法度ホウト諧和カイクシ宗族ソウ解釋ソウ冤怨エン善人エン則親シム

法度ホウト諧和カイクシ宗族ソウ解釋ソウ冤怨エン善人エン則親シム

近之助德行於身心惡人則遠避之  
 杜災殃於眉睫常須掩惡揚善不可  
 口是心非常記有益之語罔談非禮  
 之言剪礙道之荆棘除當途之瓦石  
 修數百年崎嶇之路造千萬人來往  
 之橋垂訓以格入非損費以成人美  
 作事須循天理出言要順人心見先

摺於羹牆慎獨知於衾影諸惡莫作  
 衆善奉行永無惡曜加臨常有吉神  
 擁護近報則在自已遠報則在兒孫  
 百福駢臻千祥雲集豈不從陰隲中  
 得來者哉

文昌帝君之傳

文昌帝君ハ唐時の賢人なり。氏ハ張緯ハ亞と云。玄宗  
 帝と云ひて倦倦として深太上感應廟を信じて以て  
 後蜀の國に徙居す。梓潼と云ふ處あり蜀國の  
 人集りて神と崇む。故に梓潼帝君とも云ふ。神より  
 靈驗日くお新お移り成掬せしむるは則北斗星の  
 帝に在文昌星の地あり。故に後世明朝おきて九天開化  
 主宰。文昌司祿元皇梓潼帝君と云はれり。

陰騭文

此陰騭文を文昌帝君人と記して後世の  
 教あり書あり。若し人け陰騭文のごとく身とせし  
 ば日夜帝君乃加護を蒙り我日本國大小神  
 祇の神神意にうまんとす。何の疑うやらんや。  
 陰騭と云書經洪範も惟天陰騭下民と云  
 心たり。一切の人間を統べ人を治むるも





紹興とて夫人の子の母は哀て陰陽文二百枚  
と人ふ絶して。子と持て或は陰陽文を絶して。猶と  
得るにともみ。其人命と延か。其は是とる。非年。其  
事なり。

通俗陰陽文

文昌帝君曰。十七夜を世にせよ。武財  
侍とる。武財に奉り物。財にかまら。絶て  
い。ま。は。お。お。母。百。姓。と。責。を。こ。う。又。下。後。人  
と。の。あ。ら。じ。人。の。怨。を。と。救。ひ。人。の。急。用。を。こ。ら  
人。の。冷。を。あ。ら。じ。と。は。め。と。み。便。り。を。た。人。を。初  
子。考。人。寡。を。憫。も。人。の。過。を。い。や。し。廣。く。を  
け。い。く。天。を。ま。く。内。切。の。人。を。い。く。あ。ら。じ。と。さ。り。て

善とけひ西は改めど。夫より重く今世の幸福  
貴とけふさか。昔漢干定國といふ人の父を  
東海といふ所の公事の下奉りて、  
人と悪くも、公事に執るる事、  
老女ありて、  
父はかの老女思ひ、  
若く人若の死より、  
母と嫁の殺さるるを、  
悪くも、  
死するも、  
夫一人の嫁が言ふは、  
死するも、  
夫一人の倫を、  
若くかの嫁と料すて、  
死するも、

死するも。老女の娘の外、  
母と嫁の殺さるるを、  
悪くも、  
死するも、  
夫一人の嫁が言ふは、  
死するも、  
夫一人の倫を、  
若くかの嫁と料すて、  
死するも、

大勢

死

きよりのとくかの東海とのみ元三年よりある  
 ざりたれど民百姓のたがき限さしかたうの  
 海の國なるて新ら此國を入新ありきん  
 于定國の父右の嫁が飛りして死飛ふりきこ  
 りと終り得たきかの嫁が死教と拾ひ集め  
 墓は作りていろく此傳りてましりきる日  
 ありて人皆ほびたり于定國の父をいれお母に  
 恥ぢし照深かりたり人皆教て子孫必其昌  
 昌

とくしきて于定國の父の門より傳りて駒馬の  
 車とて貴人のきる車に入る得ふ持けるお果し  
 て于定國の官に奉りて誓昌とけるも偏ふ  
 于定國は父の慈悲の報いなり又燕山實禹鈞  
 とく人年三十を子なり或時友お禹鈞が祖父  
 来りて告て曰はり子なり此書の後く道に内ふ  
 死とて他もどき若きとけり又此紙にきて  
 亦もるく子とまるとて後えて後と一白

小室は似ひ毎半我弟と使約して金浪を  
に施し。貧乏人死を葬礼する金浪を  
香奠小令報をあら貧乏者の女に相  
小嫁せしむ。妻とえのぬ者よと反持く  
妻とむらう。病人とむらう。外はく  
よま。これに終り。又人をして我弟も  
其後又復中に。祖父母の汝はく  
慈想とせむ。故は。汝が命を。人の

も官位をの儀なり。とて。又免ぬ。  
爰想。だが。人の子。皆。官。の。終。  
を。八。十。二。也。中。く。一。も。死。せ。り。  
故。も。福。と。す。後。と。す。又。宋。章。獻。白。皇。后。  
の時。宋。郊。宋。祁。と。り。又。宋。二。人。の。儒。者。の。所。  
人。相。と。り。上。者。の。上。よ。い。あ。ひ。の。上。者。白。見。  
の。宋。郊。位。の。の。宋。郊。の。宋。祁。の。官。  
の。げ。と。て。宋。郊。の。宋。祁。の。思。

隆慶文

二二

て別々なり。其後二月として。又かの古者一途を  
まはら者大不勢にて。宋郊ふ向ひくかけらる  
君河の吾根とましく人相おる。位高貴の相  
の坐まらるやと同多れば。宋郊の自我より負  
るし。が何ふよのく。吾根とまさん。延し。比目大魚  
月朝の下にまのく。此蟻集居て。既し流きんを  
ふ。以戲よ。竹と編く。橋とて。橋とほし。七城の  
と。扱ふ。若る。争う。れる。や。吾根の。成。作。ん。と。ふ。に。は。者

の曰蟻の命ふし。とまも。おの命と。扱ふ。大吾根に  
周く。ましく。人相。ましく。成。あ。ま。ま。へ。や。う。て。ま。  
位よの。ぼり。終ん。と。し。く。別。ま。け。に。終。ま。く。は。身。た  
み。さ。る。官。よ。の。ま。り。ま。る。又。楚。宰相。孫。叔。敖。と。の。み。人  
初。き。用。途。中。ま。く。お。頭。の。蛇。と。ら。ま。く。ま。く。あ。ん。の  
蛇。を。か。ん。ま。り。の。必。其。首。の。中。に。死。と。孫。叔。敖。を。重。を。ま  
ま。し。ま。る。は。是。は。備。し。控。ま。る。は。ま。り。と。申。す。道。行。人。又  
は。蛇。を。ま。り。死。ぬ。べし。と。申。す。か。の。蛇。を。打。殺。し

宋郊

二

去と塔を埋み我富子帰して其妻を以て  
 母其故と問ふ叔教の曰ふ顔の地と見る者を見  
 死とてとる。何道して顔の地と見ゆる。然しが  
 我も経るく死るんと思ひし。ほゆると信りしが  
 母問て曰。汝其地と云ふ事やと。叔教の曰。地は  
 其信工おとと又外の人目の目にからんを以て地と  
 殺して去ふ埋むゆると。母の曰。汝其妻を以て死  
 死せざるの事。んば後福あるべし。は外の人分り地は

及ん災にあらんよ。信ひては人の災いと  
 救ふ。天必慈ま。衆一衆はくはゆる事  
 せける。果して成人の後楚の世に事して富令  
 尹より富貴心の信がら。も叔教入れ夫と  
 救へる。吾をよれり。  
 熱して福徳を由事候求るもの。その人の身を  
 の終ひおよれり。一切のものの毎に信實心を因ひ  
 自身の我信と控父母國を天地二守の徳を

教ト師長の教を事以て志を以て用ひば信佛  
神の三ツの道おけ入。是と初めよりなすべ。  
甲に之を志すべし。遠き中なる老後子  
孫に傳ひたるに陽教あり。じつひの道  
速く省業れば信佛の度淨くす。信するなり。  
先を正しくし。村飲飲食女をも信す。極  
ふ心とがらむ。けざるは。心家内相和順する  
の家齊ふたり。今浪々多く。おとす。度く終り。

子孫ト財宝は。少く興人より。切お陰の  
とくを。好し。つと。富家おす。く又を  
艱難を。良し。ぬ。唯。浪々。多し。の。ま。す。る  
の。た。り。富。多。く。下。好。形。者。と。見。し。と。へ。り。以  
下。賤。さ。る。身。より。富。多。く。人。と。好。む。を。き。く。り。お。ら  
む。と。く。人。の。身。分。何。の。お。よ。技。持。し。あ。ま。考。へ  
思。ひ。益。ね。ふ。身。と。志。ま。す。表。表。た。勅。と。勸。め  
初。め。傳。ふ。ま。の。能。と。を。好。む。り。さ。り。被。お

信佛の能

被お

悪の言を言たり。自分立身出世は公徳の人の  
 他人と違ふ出世さすべし。父母と相續のお子  
 孝を以て育みし子なるゆゑ書に公徳ありし  
 人安んずるべし。兄弟姉妹は吾徳ありし  
 らす中よくとるべし。後よりいふべき兄弟の  
 行く徳と趣き吾徳守るべし。いふ中此徳根  
 ねと人おろとも。神佛もまつも後し。懺悔  
 の心を世に。看經礼誦とて。此人を孝と

用ひだれん。信實たふしと徳記がし。後  
 と相するべし。堂塔の前よく不浄を納め  
 ざるべし。水と川や井戸を汲めを納む  
 みののとあひなすべし。次山子園也を  
 扱ふ一杯の水もせは付格とす。火と塵  
 芥ふを扱ふすべし。安んずるを踏踏座  
 うす。焚火中よく香ふと。諸事不供す  
 べし。次童子の佛神の君給利生



徳にせせ。信と教とをせ。傷道と後き。入たと  
 系し。其人く。此有縁の宗門。氏進の。年齡  
 一つ。あてもよ。さる。人ハ。見。る。り。父。か。り。と。その。教  
 ひ。一。つ。中。く。も。ら。お。き。人。ハ。見。る。り。子。か。り。と。お。き。と  
 構。人。の。縁。ハ。倍。々。と。い。は。ば。巴。が。長。と。い。は。ば。さ。ら  
 ざ。人。の。縁。を。稱。員。と。い。ふ。一。常。と。難。有。と。い。ふ  
 一。か。る。後。世。の。御。慈。や。り。彼。古。此。世。の。時。代。の。氏  
 一。百姓。ハ。縁。ハ。善。を。を。極。の。め。と。す。る。れ。ば。さ。ら

と。さ。ら。な。ら。ん。公。儀。の。御。法。度。を。守。り。ま。す。は。
 家。業。と。い。ふ。き。い。か。れ。の。身。ハ。佛。の。家。の。御  
 度。懐。び。ま。す。と。朋友。の。ま。ま。と。り。ま。す。友。ハ。悪。く  
 と。進。む。善。友。と。よ。ら。る。の。縁。と。い。ふ。人。を。善。友。と  
 一。あ。ま。の。勸。ま。す。は。何。せ。い。や。う。と。も。移。り。て。善。友。を  
 一。あ。の。ま。う。急。進。不。善。道。よ。ん。と。い。へ。一。限。り。を  
 一。あ。の。人。の。命。限。り。と。い。は。れ。あ。の。人。の。欲。心。は。さ。ら。
 一。を。知。ら。ず。し。む。教。の。倉。庫。ハ。財。宝。と。積。む。と。を

猶能あきくもあき。苟あくもあもあらあむあばあ。定あ後あとあまあひあ  
余あ討あちあべあ。社あ佛あ子あ供あ者あ一あ。負あ人あよあ中あ生あ後あ志あ  
物あ業あ形あ。良あ系あとあ施あ一あ。社あ佛あ園あ。其あ地あ名あ勝あ。修あ仰あ乃あ  
おあしあもあ私あせあんあ。社あ佛あ園あ。其あ地あ名あ勝あ。修あ仰あ乃あ  
少あ事あ此あ。亦あ行あとあ効あめあ。風あ雅あのあ人あ社あ杖あとあ句あ。涼あ山あ幽あ  
谷あ。海あ濱あ。蒼あ野あ。陌あ分あをあ尋あ。難あきあ而あ。標あ石あ  
とあ建あ。赤あ糸あをあ。道あとあ知あくあせあ。又あ。陰あ。迴あ。宅あ。アあ。があ。死あ  
るあ。低あ。乃あ。易あ。かあ。くあ。るあ。石あ。横あ。らあ。りあ。樹あ。系あ。をあ。成あ。るあ  
とあ建あ。赤あ糸あをあ。道あとあ知あくあせあ。又あ。陰あ。迴あ。宅あ。アあ。があ。死あ  
るあ。低あ。乃あ。易あ。かあ。くあ。るあ。石あ。横あ。らあ。りあ。樹あ。系あ。をあ。成あ。るあ

政あ掩あぬあるあ。是あとあ甚あきあくあ。これあ。以あ。平あ。くあ。一あ。或あもあ  
石あ橋あ。着あ。橋あ。棧あ。山あ。門あ。はあ。隈あ。後あ。一あ。潦あ。水あ。乃あ。亦あ。とあ  
修あ。取あ。一あ。冨あ。者あ。亦あ。一あ。地あ。をあ。くあ。しあ。只あ。はあ。来あ。易あ。くあ  
らあ。んあ。中あ。はあ。しあ。謂あ。生あ。らあ。るあ。社あ。佛あ。社あ。堂あ。のあ。破あ。壊あ。也あ  
とあ。再あ。建あ。一あ。名あ。をあ。くあ。るあ。人あ。のあ。石あ。碑あ。のあ。權あ。をあ。くあ。るあ。紙あ  
與あ。一あ。古あ。政あ。のあ。知あ。りあ。をあ。くあ。るあ。紙あ。をあ。明あ。白あ。一あ。持あ。石あ。をあ  
建あ。立あ。一あ。又あ。学あ。文あ。とあ。らあ。偽あ。者あ。鑿あ。者あ。をあ。多あ。所あ。地あ  
帝あ。業あ。乃あ。於あ。しあ。書あ。地あ。以あ。用あ。をあ。くあ。るあ。紙あ。をあ。明あ。白あ。一あ。持あ。石あ。をあ

皇極經世一

卷之八

与へきこと一。又老人と病人と身人の主たるの  
 ゆゑに母を人重きものとすは法より理を付  
 て付合すべし。子在奴僕を万のの命をぬ若  
 と兼くんるゆゑのも字をん。罵不叱ふく  
 情を掛る。老に歳父と孝子法出とく  
 へど子の要を親の法切とくさるゆゑなり。至能  
 るらん老のゆるせなるのとすべし。奴僕と  
 密に能くすべし。姓のりき老とすべし。

とくしに及て恨と會し陰を其人にわく  
 言ふ。一。年より日を倦り儀とのなり。人の善悪  
 は心よりなるなり。教句をばるる事および  
 ののなり。行ひと教ぶりの中法と人由て吾思  
 と見聞とす。又教とのりの命と教すべし。  
 難辨なるを顔の勿論也。始貝に一切の生  
 るるものゆゑにべ外のものあり。食用は是る  
 事と辨れ。安んずる年賀の役ひりばしと料

刑不坐死をききたり。自己は罪を終ふ。  
抽の命と改ふに事りるも勝もその方の死  
能く考ふべし。道と行ふも懐悛の教ひすの  
草も踏ぬ中へ無むべし。出来ることこ  
その為も子たも後命するも皆殺生の教あり。  
他人の勿論。父子夫婦兄弟の中へも即  
ち返しお終るものもきし用ひらぬ。或る  
がも竊盜の人も来て貧乏なり。若し

楚む教ひたり。能く終るものも即ち現  
に罪より終る人。人の妻女娘下女を盗ひ初  
るも色慾も迷ふなり。此教のまじりてより  
大切なる事。物ごとく人の目と見ぬもの。見  
ぬると見ぬもの。いふよる此事と言ふ事  
かたはへん。人の心にめきとまると人申  
いつまふ及ぶ。お内もてもさる。一く糧食より  
言ふ事。いふ事。いふ事。いふ事。いふ事。

陰中く人のひ御傍とてくは交服食事。  
 教飛る道具分限お無う振へおしで結害  
 かましく社会食るるくは合の気と長こと  
 のこのおさる。十にお冷ふべうと。五明の  
 匡うす。も上食合をえよ損害あべ。飲食  
 後りのひ肌渴咽病の教ひを振じとて融  
 堪悪くいさうの無然吾恨うと人か後立怒  
 る時へ様一功はと滅とらう。懸悲多きもの

生魂極極品類ひな能くめと知れぬ  
 て徳乃と難くさう。在りて美と愛は信信  
 の乃を外徳道清る人皆を説きと知ぬ人なり。  
 ともたさうしくまふなる人獲るのふゆんき  
 衆と缺うして世を今くばお若も若うん進よ  
 けま。一も人衆を美しあ知もあうん世衆  
 らふよりして事まするけんは糸よりまくる。けん  
 何れもさうさうの耐く刻くは信信所は約の明

はとめしうに飛ぶ鷹の如く  
を以て愛する心は子に  
つゝその後より死すも  
るりう世習を思ふり  
ん快楽見孫長久有る  
常後公の欲する所は  
愛小中し肝要けり  
志むるこゝろおぼる  
はとめしうに飛ぶ鷹の如く  
を以て愛する心は子に  
つゝその後より死すも  
るりう世習を思ふり  
ん快楽見孫長久有る  
常後公の欲する所は  
愛小中し肝要けり  
志むるこゝろおぼる

の好むとまじく飛ぶ  
は法とて醫某と本と  
死のこ小忠と用也  
唐士小呂者師といふ  
者の祖師之常又廣く  
わ小業法といふて  
まうる小け聖の教へ  
の醫某の及ぶ小ら  
の好むとまじく飛ぶ  
は法とて醫某と本と  
死のこ小忠と用也  
唐士小呂者師といふ  
者の祖師之常又廣く  
わ小業法といふて  
まうる小け聖の教へ  
の醫某の及ぶ小ら

あつたのこころなりと入り常小は法をたてて自ら  
目くおとを用ひ人の中もさきめ廣くひくす時小  
おのこく延壽の生る子孫人衆の心はたつたこと  
るけ組昨終小曰他若死時尔救他尔若  
死時天救尔延生生子別方戒殺放生而已  
矣ト凡人を子孫を人中中やて長命うまへ  
奉と皇の人々の同じ心ありやれども自家の  
私欲小まらして酒食小あけて菓物の殺生

とるもの(却)の親命に子孫長久をうまへ  
そのゆへおれ命を縮むる自らの命を  
あむむとつと殺生といふの放生の功  
徳をとればこそ利益小して子孫を人中中うまへ  
長命月堂うまへるゆへに凡生類ハ人と  
同様にして天地よりみまはるる畜の各別を  
と又魚を養ふべしとてふもさき命と助けられ  
る人々を養ふべき命と助けられし人々を

か介てその助くる人を守護し、悪ふすに  
よまふをとりくる人、おれ世の中、の真と  
物くみる、これ小由依して、我をたどくる、  
自くう、漸く、殺害、たのぼうう、来る、  
別と、お方、この小い、おの、こと、といふ、なり、子孫、  
面、お命、ある、よ、八、別、仕、方、なく、只、殺、害、  
戒、の、故、事、と、し、る、二、の、と、う、り、  
と、く、し、て、子、と、生、ま、ら、う、と、て、婦、人、を、近、け

命と延とて、名方持業と、勤、大、あり、  
令と延とて、名方持業と、勤、大、あり、  
ひが、こ、と

支婦交合禁忌日

きの入子。かの入申。むの入ひのとの日記者大凶  
産後百日の内、多病婦、月水、内、日記者凶、  
悪疾と、おこす、二月九日、四月朔日、  
犯者、毒あり、十、  
二人とも小犯者。十月十日、  
犯者、毒あり、十、  
十二月七日、  
犯者、悪疾と、  
毎月、  
十、



日そく月そくの日犯者毒あり父母を毒め  
忌日ハツシムベ

大の戒ハ教信録といふ出又ありこれ夫婦の  
交合ハ淫穢にふけり又何んか又たのしきも  
あつてその極意ハ子孫長久ドテ先祖へ  
孝行を以て一永く血脉と續くことある由  
よしと日と情令糞と人き事とありむ  
け教信録の日録と名く心とありてちり人

躰

昔の陰徳何れバ陽報ありといふ人知らば  
功徳若事ともれバ必に眼前にそのよ徳  
有りたるとバウけよ物あまは中程うあは  
者さうはつらうと一平あべくす此臨臨文ハ  
文昌帝君といふ唐の賢者人徳してのづ  
文より此文を傳とる人ハ所記必く快やけ  
聖徳ありとあるゆ事無小も一が

今そののゆへに申しと辨るに刻もなきものなるに  
やどこそすぢり老ある人ばよく見ゆべき  
又のぬり懐しとゆふに

文政九丙戌仲春吉辰



施主

おん 志やねい そ い そん そ そ か  
志やねいそいそんそそか  
志やねいそいそんそそか  
志やねいそいそんそそか  
志やねいそいそんそそか

通俗陰陽文終

Blank page with faint bleed-through from the reverse side. Some small, illegible marks are visible in the upper left corner.

Page with significant damage, including large black ink smudges and areas of discoloration. Faint, illegible characters are visible, possibly bleed-through from the reverse side.

